

令和2年第5回東大和市議会建設環境委員会記録

令和2年11月5日（木曜日）

出席委員（7名）

委員長	床 鍋 義 博 君	副委員長	尾 崎 利 一 君
委員	二 宮 由 子 君	委員	木 下 富 雄 君
委員	関 田 正 民 君	委員	佐 竹 康 彦 君
委員	中 間 建 二 君		

欠席委員（なし）

委員外議員（なし）

議会事務局職員（5名）

事務局長	鈴 木 尚 君	事務局次長	並 木 俊 則 君
議事係長	吉 岡 繁 樹 君	主任	関 口 百 合 子 君
主任	高 石 健 太 君		

出席説明員（なし）

会議に付した案件

（1）所管事務調査

観光行政に関することについて

午後 1時 7分 開議

○委員長（床鍋義博君） ただいまから令和2年第5回東大和市議会建設環境委員会を開会いたします。

新型コロナウイルス感染防止のため、3密を避け、広い空間を取る必要がございますことから、本日もこの全員協議会室において御協議いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長（床鍋義博君） 所管事務調査、観光行政に関することについて、本件を議題に供します。

前回の委員会において、行政視察につきましては、新型コロナウイルス感染症対策等を含め、近隣自治体の状況などを勘案し、視察可能な施設等があれば、正副委員長で協議の上、視察を行うことと決定いたしました。

その後、正副委員長で協議し、調整を行った結果、狭山丘陵観光連携事業における現地視察として、里山民家、六道山公園展望塔、さいたま緑の森博物館を視察することといたしました。

このことに伴い、10月26日付で行政視察の日程等について各委員に通知をいたしました。

よって、本日はこれより現地を視察し、調査を行いたいと思います。

このため、会議規則第96条の規定に基づき、お手元に御配付いたしました派遣承認要求書のとおり、議長に対して委員派遣承認要求をしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、さよう決します。

それでは、現地視察を行います。

〔 現地視察 〕

午後 1時 9分 休憩

午後 4時 開議

○委員長（床鍋義博君） 現地視察により視察先の状況を確認いたしました。

それでは、先ほどの現地視察について、委員の皆様から御意見、御感想等を御発言いただきたいと思います。

○委員（佐竹康彦君） 委員長並びに副委員長のコーディネートで視察をさせていただきまして、ありがとうございました。それぞれ里山の民家、六道山公園展望塔、さいたま緑の森博物館と、非常にそれぞれがどのような事業をされているのか、またどのような形で市民の方、また地域外の方から親しまれる事業を展開されているのかということ大変興味深く学ばせていただいたところでございます。

特に、全体的な流れの中でさいたま緑の森博物館の方がおっしゃっておられた、5市1町で協働で何かやるというよりも、それぞれが今手がけている業務、事業をそれぞれ組み合わせながら連携をしていくということが一番現実的でいいんじゃないかというようなお話をいただいて、なるほど、そのとおりだなというふうに思ったところです。

なかなか観光連携事業という中で意見のすり合わせや統一して行うということも難しいというような現場の職員の方のお話も伺いましたので、こういったポイント、ポイントでしっかりと事業をされながら、それが連携をしていく中で、例えば東大和の事業とこの里山民家の事業、またさいたま緑の森博物館の事業が連携していく中で多くの方が東大和市にも足を運び、また狭山丘陵の自然にも親しんでいただけるようなこういった仕掛けですとか、またより多くの人に来ていただける事業というものを、今後とも東大和市の担当課には御努力いただければなというふうに思ったところでございます。

現地を視察させていただいて、本当に地域外の方はもとより近隣の方、当市に住んでる方々にとっても非常にもっともっと訪れていただきたいような場所だなというふうに認識を改めさせていただいたところでございます。

以上です。

○委員長（床鍋義博君） そのほか、よろしいですか。

○委員（尾崎利一君） 3か所見せていただいて、1つはハードつくるだけではなくて、やっぱりソフト、そこでどういう企画を日常的に行っていくのか、その点でNPOの力も借りたりしてやってるとするのは、非常に参考になりました。

それから、もう一つは、自然環境を守る営みそのものが観光の材料になっていくっていう点で、本当にその環境を守ることにきちっと一定の財源を割いて取り組むっていうことと、その地域の発展っていうことを結びつける道がいろいろ可能性があるんじゃないのかなということを感じました。

○委員（中間建二君） 狭山丘陵観光連携推進事業の一環の中で連携してる自治体の施設等、今日視察させていただきまして、ありがとうございました。

さいたま緑の森博物館、また野山北公園での里山民家、両方とも、いわゆる先ほど尾崎副委員長のほうかもお話がありましたようなNPO、また株式会社、民間での指定管理によって様々な事業が展開をされて、もともとある自然の魅力や、また施設の魅力を大きく発信をし、活用が進んでる様子が確認をできました。

当然、前回の委員会の中で連携事業の中での民間のノウハウを取り入れていくという方向性も示されておりましたけども、ぜひそれらの取組を強力に推進をしていただきたいと思いますし、また、私も東大和市におきましても、例えば郷土博物館なり、また狭山丘陵に隣接する市が管理する公園等も点在をしているわけで、そういうところにも東大和市の中でもできる限りNPOや株式会社等民間の力で施設管理、また観光の魅力を創出していく、そのような方向性の取組が、やはり観光で人を呼んでいくという意味では、そういう取組が必要ではないのかなということを改めて強く実感をいたしました。

昨年でしたかね、委員長のほうで取り組んでいただいた浜松でのDMOの取組等も見ますと、やはり民間との連携、またノウハウを使っていくことがこの観光での成功につながっていくのではないかとということを強く実感をいたしましたところでございます。

以上でございます。

○委員長（床鍋義博君） そのほか、よろしいですか。

○委員（二宮由子君） 視察、お疲れさまでした。

今回3か所行かせていただいたんですけども、私、初めてのところばかりで、こんなに近くて、こんなに自然豊かなところがあったんだっていうの改めて驚いたのと、狭山丘陵連携事業も含めて、先ほど佐竹委員がおっしゃっていたように、既存の事業をこれからも展開してくというふうなことも、さいたま緑の森博物館の方がおっしゃっていたんですけども、冠1つにさせていただいて、例えば連携といっても1つの目標に向かって各市が既存の事業を展開していただいいて、ちょうど今コロナ禍でなかなか遠くに行かれない方も多い中、こんなに近いのに、こんなに自然豊かなところがあるんだって再発見の機会になっていただければいいのかなっていうふうには思いました。

以上です。

○委員（佐竹康彦君） もう一つ、行きながら感じたことなんですけれども、観光という中で例えば大型バスで

100人、200人単位で大勢の方が来て散策をされて、何か物を買って帰るというタイプの観光ではなくて、やはりお一人お一人、個々人、個々人の方に狭山丘陵の観光の良さがしっかりと届いて、そして興味をもって来ていただいて、そして何回も何回も足を運んでいただく。大きな観光地、1回行ったら終わりとかそういう観光地のタイプではなくて、何回も何回も、日頃の日常の中で足を運んでいただけるってというようなタイプの観光事業なのかなというふうに感じさせていただきました。

その中でやっぱり重要だというふうに思ったのが、二宮委員のお話とも関連すると思うんですけども、情報発信の在り方、どれだけこの狭山丘陵の観光がすばらしいのか、自然がすばらしいのかということをやより多くの市民の方、都民の方、また海外等にも情報発信していきけるのか、その情報をどれだけ多くの人に届けていくのかというのがやっぱり大事なのかなというふうに感じさせていただきました。

以上です。

○委員長（床鍋義博君） ほか、よろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（床鍋義博君） ただいま委員の皆様からいただきました御意見等につきましては、所管事務調査の報告書に反映させていただきたいと思えます。

続いて、今後の調査の進め方等について御協議いただきたいと思えますので、御意見等ございましたら御発言をお願いいたします。

〔発言する者なし〕

○委員長（床鍋義博君） それでは、所管事務調査の進め方ですけれども、正副委員長でまとめの原案というのを作らせていただいて、次回の定例会のときまでに皆様にお示しして、その後、皆様から御意見をいただきまして、最後報告とさせていただくような方向で進めさせていただきたいと思えますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） じゃ、そのように進めさせていただきます。

お諮りいたします。

所管事務調査、観光行政に関することについてにつきましては、本日はこの程度にとどめたいと思えますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（床鍋義博君） 御異議ないものと認め、さよう決めます。

○委員長（床鍋義博君） これをもって令和2年第5回東大和市議会建設環境委員会を散会いたします。

午後 4時10分 散会

東大和市議会委員会条例第30条第1項の規定により、ここに署名する。

委 員 長 床 鍋 義 博